

小学生規則の検証を行う内容について

次の2項目について試験的に導入をして多角的に検証を行います。これらは、競技力と審判技術の向上を目指し、現行の小学生規則をシニアルールに寄せていくことを目的としております。

第4条 試合の進行

5.「監督は、ラリー中ベンチに座っていなければならない。」

を次のとおりとする。

ルールブック P39 5.2.3.4 より抜粋

「監督は、自チームのアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出すことができる。この時、ラインジャッジの視界を遮ってはならない」

<検証のポイント>

ラリー中に監督が立ち歩けることによって、どのような変化があったかを検証する。

- ラインジャッジの視界を遮らないことは勿論であるが、(ラインジャッジを含め)判定に影響を及ぼす事象はあったか
- マナー面に変化はあったか
- プレーへの影響はあったか(選手への指示の仕方も含む)
- どのようなメリット(デメリット)があったか

第6条 ネット付近の選手

「片方の足(両足)または片方の手(両手)がセンターラインを越えて相手コートに触れても、侵入している片方の足(両足)または片方の手(両手)の一部がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる部分も相手コートに触れることは許されない。」

を次のとおりとする。

ルールブック P61 11.2.2.1～11.2.2.2 より

「相手コートに侵入している片方の足(両足)の一部が、センターラインに触れているかセンターライン真上の空間にあれば、この動作が相手チームのプレーを妨害しない限り、足首より上の身体のどの部分が相手コートに触れてもよい。」

<検証のポイント>

怪我の予防やネット下の交錯が起きないようにとされてはいるが、科学的な根拠や実証データはない。ペネトレーションフォルトをシニアルールと同様に執り行うことによって、小学生のプレーや指導にどのような変化があったかを検証する。

- プレーへの影響はあったか
- 選手への指導に影響はあったか
- ペネトレーションフォルトに関わるプレー(反則)のよって、選手が負傷するケースがあったか(発生した場合は怪我の程度と、どのようなプレーだったか)
- どのようなメリット(デメリット)があったか